

第1回グローバルCOE主催

京都大学・ベルリン自由大学共同国際シンポジウム

“幸福とリスク”

企画・構想：鈴木晶子、クリストフ・ヴルフ

日時：2008年2月20日（水）9：30～18：00

21日（木）9：30～12：00

場所：京都大学文学部（新館）第一講義室

（2月20日は公開。入場料は無料、申し込みも不要、ドイツ語・英語・日本語による発表とディスカッション。2月21日は、京都大学グローバルCOE関係者とベルリン自由大学、エアランゲン大学関係者による共同研究打ち合わせを行う）

京都大学大学院教育学研究科グローバルCOEのDユニットによる企画として日独国際シンポジウムを開催します。ドイツからは、ベルリン自由大学のクリストフ・ヴルフ（Christoph Wulf）教授、ユルゲン・ケルナー（Juergen Koerner）教授、エアランゲン大学のイエルク・ツィルフアス（Joerg Zirfas）教授をお迎えします。また、京都大学側からは、藤田和生教授、河合俊雄教授、鈴木晶子教授が発表報告をいたします。

シンポジウムの主題は、幸福とリスク。幸福という言葉からイメージされるものは宗教や文化、歴史、社会など様々な背景によって異なります。京都大学のグローバルCOEでは、この幸福に関する哲学、心理学、社会学、教育学といった学際的な手法を駆使しながら、国際比較調査を行うことを計画しています。今回のシンポジウムでは、幸福という概念の歴史的な生成や社会的意味について、歴史人間学の立場から、人間のリスク・マネジメント能力との関連に焦点を当てた報告をヴルフ教授が、また、幸福という概念の精神分析の観点からの報告をケルナー教授が、さらに幸福概念の哲学的な解明と、その教育学にとっての意味についての報告をツィルフアス教授が行います。また、日本側からは、動物の高次感情と幸福との関わりについて藤田教授が、臨床心理学の観点からの幸福に関する考察を河合教授が、日本語の幸福概念の分析と学際的・国際的比較調査に向けての構想について鈴木教授がそれぞれ行います。

なお、通訳はつきませんが、英語を中心に、日本語、ドイツ語を交えた討論を行うこととなります。適宜、相互に通訳をしながらという討論形式になります。多くの方のご参加をお待ちしております。